

公表	事業所における自己評価総括表
----	----------------

○事業所名	多機能型児童通所支援事業所 に・こ・ぱ2			
○保護者評価実施期間	2025年 3月 1日 ~ 2025年 3月 28日			
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	19	(回答者数)	15
○従業者評価実施期間	2025年 3月 1日 ~ 2025年 3月 28日			
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	8	(回答者数)	8
○事業者向け自己評価表作成日	2025年 3月 31日			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	お子さんが楽しく安心して通える場になっていること。 加配配置を増やし個別の対応が可能になっている。	個々に合わせた環境設定や遊びの提供など、職員間で情報共有や共通認識を持ちながら取り組むことができている。 個別活動やパーティションを使いながら、お子さんの状況に応じて少人数で活動できる環境設定を行っている。	一人ひとりのアセスメントを丁寧に実施しながら、楽しさや達成感を感じとりながら過ごすことができるように個別のかかわりや環境設定に配慮していく。
2	保護者に対しての日々の情報共有を行いながらお子さんの状況について共通理解をもっていること。	送迎時間や連絡ノートなどで日々の様子を具体的に伝えたり、かかわり方や環境を設定を工夫することで、自信につながったりできることが増えた等、伝えることを心掛けている。	今後も継続して療育の内容や日々の様子をこまめに発信し、保護者と情報を共有していく。
3	他事業所の見学や連携を通して、支援に偏りが生じないように配慮している。	他事業所の見学や連携を通して、支援の内容を振り返ったり、幅をもつことに努めている。	事業所内、外の研修に留まらず課題に沿った学びを求めることで、他事業所との合同研修会など積極的に実施する。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	家族なども参加できる研修会や情報提供の機会が少ない。	保護者の方々が交流する機会や研修の情報提供は不足している。	保護者のニーズを確認し、交流や研修について職員間で検討しながら適宜情報提供や交流の場を設けることができるようにしていく。
2	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果等、公表はしているが、周知には至っていないこと。	活動や行事予定、避難訓練等の実施について毎月配付しているお便りに記載しているが、実際の様子等については連絡ノートや送迎時に伝えるのみとなっている。	職員間でSNS等の活用を検討しながら、保護者への発信を強化していく。また、自己評価や支援プログラムの公表についてもお便り等で発信し、周知することに努める。
3	幼稚園、保育園、地域の子どものとかかわりの場が少ない。	活動プログラムに地域交流を組んでいない。	児童会館や公共施設での活動を組み、地域の子どものとかかわる機会を設けていく。